

和歌俳句丛书

拈花微笑

——松本杏花俳句选集

〔日本〕松本杏花 著 叶宗敏 王大钧 译注



译林出版社



拈花微笑

——松本杏花俳句选集

译林出版社

「日本」松本杏花 著



图书在版编目(CIP)数据

拈花微笑:松本杏花俳句选集/(日)松本杏花著;叶宗敏,王大钧译注.-南京:译林出版社,2004.12

(和歌俳句丛书)

ISBN 7-80657-716-5

I.拈... II.①松... ②叶... ③王... III.俳句-作品集-日本-现代 IV.I313.25

中国版本图书馆 CIP 数据核字 (2004) 第 117209 号

- 书 名 拈花微笑
作 者 [日本]松本杏花
译 注 叶宗敏 王大钧
责任编辑 彭 城
出版发行 译林出版社
电子信箱 yilin@yilin.com
网 址 <http://www.yilin.com>
地 址 南京湖南路 47 号(邮编 210009)
集团地址 江苏出版集团(南京中央路 165 号 210009)
集团网址 凤凰出版传媒网 <http://www.ppm.cn>
印 刷 丹阳兴华印刷厂
开 本 850×1168 毫米 1/36
印 张 7
插 页 5
版 次 2004 年 12 月第 1 版 2004 年 12 月第 1 次印刷
书 号 ISBN 7-80657-716-5/I·608
定 价 14.00 元

译林版图书若有印装错误可向承印厂调换

出版说明

和歌与俳句,是日本民族的传统诗歌。

和歌,是与最早流传于日本的中国古诗(日本称汉诗)相对的名称,也称倭歌,即大和——日本诗歌之意。

和歌只有音数句式格律,包括长歌、旋头歌、片歌等多种形式,其中以短歌为主。后来,又由于创作短歌的愈来愈多,以至长歌及其他形式的歌作基本消逝,今天,只有短歌流行于歌坛。短歌的音数句式格律为五·七·五·七·七的三十一音节。

还是在室町时代(1336~1573),随着资本主义经济的抬头和市民阶级的涌现,又在连歌的基础上产生了俳谐连歌(后来也称俳谐或俳谐连句),主要特点是一反和歌那种语言典雅、力争脱俗的倾向,代之以诙谐、机智和不避俚言俗语的风格。时至明治年间(1868~1912),大俳人正冈子规提出将这种集体连句创作的起句称为俳句的主张,得到普遍认同。

今天,短歌和俳句,成为日本古典诗歌的主要形式,受到日本人民的喜爱。特别是俳句在全世界各国,都有较大影响。我国于1990年5月成立“和歌俳句研究会”,当代杰出歌人近藤芳美和中野

菊夫,杰出俳人金子兜太等率领众多知名歌人和俳人,以及地方上的优秀歌人、俳人单独前来祝贺,并进行西湖和兰亭游吟活动,盛况空前,硕果累累,唤起了我国研究家和翻译家,以及诗歌作家和爱好者的关心。因此,出版这套丛书,乃是中日两国文化交流、尤其是歌俳交流的必然趋势,深信它对加强中日两国诗友的团结和中日两国人民的友谊,以及中国诗人向日本传统歌俳的借鉴,将起很大作用。这套丛书,主要以现代短歌和俳句为主,间或也可能出版传统和歌(长歌和其他形式的歌作),故以《和歌俳句丛书》名之。

李 芒

1991年8月

序

有人说,日本民族是偏于直观性和情绪性思维的。春天的樱花,引发人生无常,世事幻化之感;秋日的黄昏,则又兴起寥廓旷远、寂寞悲伤之情;街头苍凉的叫卖声,摊车上鲜艳的红柿子,甚至一声蛙鸣,几片落叶,都能予人以美感与妙悟。这种对自然四时节序的敏感,对人生精微透彻的观照,构成了日本民族审美意识的基础。从古代的《万叶集》、《源氏物语》和《枕草子》等古典名著,即可看出这种悯物怜情的审美精神,对后世影响深远,如今已形成民族的审美传统。在现当代作家的作品中,在普通人的日常生活中,无不渗透着这种精神,体现出这一传统。所以,日本民族是爱美的,讲究风雅,讲究情趣。

而俳句,恰是最能表达日本人这种审美意识的诗歌形式,极其符合日本人的审美习尚。在同大自然的一缘一会中,有心人能感悟出万物之奥妙,人生之真谛。一位日本俳人这样写道:看到万物的勃勃生机,便会为之感到,为之欣喜,为之悲哀,为之憧憬,于是从中得到慰藉。这,就是诗。疾风中的小草,令人感佩其坚韧;一枚蝉蜕,让人领悟生命的尊严。换言之,俳句就是人同自然的对话,与万物的沟

通。

虽然一首俳句仅有十七个音节,堪称世界上最短小的诗型,但这并非意味着单薄。不妨套用诺贝尔文学奖得主川端康成的话来说,俳句“是最纯粹的艺术。描写那敏锐内心的一闪,刹那间纯情的流露……蕴含着深刻而丰富的人生……”所以,俳句这一艺术形式,向来为日本人所喜闻乐见,甚至可以说,妇孺老幼,人皆能之。历代固然不乏俳句大家,如俳圣松尾芭蕉、小林一茶等等,即便在现代,也是名家如林,尤其女俳人,更是群星璀璨,群芳斗艳。松本杏花女士当是其中的一位。

这本俳句集,收录了杏花女士 200 首俳句,所涉及的题材相当宽泛,既有“长江滚滚流 岁月悠悠欲壮游 鱼贯入秋楼”,“飞雨亦轻柔 只缘胡枝花凋零 屈子祠有情”等怀古之作;也有“梅开清香盈 夜幕低垂掩疏影 依依怀人情”,“手切白兰瓜 心驰分居儿女家 遥遥胜天涯”等离情之咏;既写“贪心萌祸胎 一旦抛弃轻松来 夏日恐山隈”一类的人生感悟;也写“苍茫洞庭幽 寒气沁身寂寥秋 湖上漂孤舟”,“船头燃篝火 诱来鱼群鸬鹚捉 河湍流彩波”,“祖母静无言 紧闭嘴巴皱纹显 晾晒梅子干”等景物与日常生活;其中也不乏“盛夏一清晨 确实看到小男根 可爱小孙孙”这样描写初得孙儿的喜悦之情……总之,山川胜景,人生百态,无不是她吟咏的对象。

诗人以一双敏于观察的眼睛,丰富充沛的诗情,以及女性所特有的纤细与委婉,将其瞬间所见,刹那所感,一事一物,一情一景,尽皆浓缩在短短的十七个音节之中。也许诗人已为人祖母,经过生活的历练,这些俳句,写得质朴简约,深挚率真,读来感到亲切,温馨。那几首描写阿婆脸皱如梅干和得孙之喜的句子,确能引起读者会心的一笑。常言说得好,“风格即其人”,诗品即人品。

诗,不好译,甚至不可译,尤其是俳句。记得上世纪八十年代,中国的日本文学界曾就和歌(包括俳句)汉译问题,有过一次大的讨论。关于汉译的形式,众家各执一见。好在文学艺术,讲百花齐放,翻译亦然,无论译小说,译诗歌,译家都可各显身手,纷呈异彩。宗敏以及王大钧先生对俳句素有研究,已有几个译本面世,一向采取五、七、五的形式,即所谓的“汉俳”,三句皆押韵。这个译本也不例外。日文是十七个音节,汉语是十七个字,内容含量远远大于日文。翻译时,势必要加字加意才行。这取决于译者能否准确把握原诗的内涵,抉发出诗人的言外之意。不用说,这种译法有相当的难度。但是,宗敏以及王大钧先生凭其才情和悟性,经验和妙笔,较好解决了这一难题。每句之后的“题释”,一方面向读者提示了“季语”的含意,同时也点出该句的“诗眼”,全诗的主旨,可谓画龙点睛,十分精当。

读日本的俳句,固然可进一步了解日本的文化,同时也是一种教养,能涵育审美的眼光,培养优雅的情操,会更加去关爱宇宙万物的一切。这对提高民族的文化素质,不失为一个好办法。

高 慧 勤

甲申年秋

序　　文

日本民族は直観的で情緒的な思惟に偏っていると言われている。春の桜は、人生の無常と世事の幻の感をそそり、秋日の黄昏^{あき　ひ　たそがれ}は、高遠で、もの悲しい情を引き起こす。街頭の侘びしそうな振れ売りの叫び声、一輪車に載っている色鮮やかな柿^{かき}ひいては一声の蛙^{かわず}の鳴き声、何枚かの落葉は、いずれも人に美感と妙な悟りを与える。このような、自然の四季折々に対する敏感さと人生に対する精微で透徹した観察は、日本民族の審美意識の基礎を成している。古代の《万葉集》、《源氏物語》と《草枕》などの古典名著からも窺えるこのようなもの哀れの審美精神は、後世にも深く影響を及ぼしており、今になっては、もう民族の伝統になっている。現代、当代の作家の作品の中にも、庶民の暮らしの中にも、いずれもこのような精神が浸透しており、この傳統が現れている。だから、日本民族は美を愛し、風雅を重んじ、情趣を尊^{たつと}んでいるのである。

俳句恰も、最も日本人のこのような審美意識を表すことができる詩の形で、極めて、日本人の審美

の習わしに合っている。大自然とのめぐり合いの中で、真剣な人は、万物の奥義と人生の真理を悟ることができる。ある日本人の俳人は、万物の勃勃たる生氣を見ると、これで感動させられ、これで喜び、これで悲しみ、これで憧れ、するとその中から慰めを得ることができると、こう書いている。これは即ち詩である。疾風の中の小さな草は、その強さが人々を感服させる。一枚の蟬の殻は人々に生命の尊さを悟らせる。言い換えれば、俳句は即ち人人と自然との対話であり、万物との交流である。

一首の俳句は音節が十七しかなく、世界で最も短い詩型と言えるが、それは手薄だというわけでは決してない。ノーベル賞受賞者川端康成の言葉を借りて言うと、俳句は最も単純な芸術で、内心の鋭敏な閃きを描き、瞬間の純情的吐露は、深刻で豊富な人生を含んでいる。故に、俳句という芸術の形はずっと日本人から好まれ、老若男女が誰でもできるとまで言えよう。歴代では、俳聖である松尾芭蕉、小林一茶といった俳句の大家が少なくないが、現代と当代でも、名家が林立し、特に女性俳人はなおさらそうであって、輝いている夥しい星のように^{けん}妍をあい競っている。松本杏花女史はその中の一人であろう。

この句集には、杏花女史の俳句二百首が収録されており、その触れている題材が相当幅広い。「長江の悠久たるを秋楼に」、「こぼれ萩に雨もやさしく屈子祠」といった懐古の作もあれば、「梅が香や夜の帷に人を恋ふ」、「メロン切る子離の子は遠く住み」といった離別の詠いもあり、「欲心を棄て来し夏の恐山」といった人生の悟りを描いたものもあれば、「洞庭や身に入むほどに孤舟あり」、「鶉かがりに川の流れの速さかな」、「祖母無言口を窄めて梅を干す」といった風景と日常生活を描いたものもある。中でも、初めて、孫を得た喜びを詠った「夏の暁男子の印しかと見て」のようなものも少なくない。……要するに、河川の名所といい、人生の様々な姿といい、その何れもが女史の詠う対象となっている。

詩人は、観察に敏感な目、豊かな詩情及び女性特有の繊細さと婉曲さで、瞬間に見たり感じたりした一事一物、一情一景を全て短い十七の音節の中に凝縮きようしゆくしている。詩人がもう孫のある祖母で、生活の中でもまれたためか、これらの俳句は、質素真摯しつそしんしそのもので、読者に親切さと暖かさを与える。お婆さんの梅干のような皺と、孫を得た喜びを描いた幾つかの俳句は確かに読者の会心の笑みを誘うことができる。諺にも「風格即ち其の人」

とあるが、詩品は即ち人品である。

詩というものは、翻訳がなかなか難しく、^{はなはだ}甚だしきに至っては翻訳できなくて、俳句がもうそうである。確か前世紀八十年代では、中国の日本文学界で和歌(俳句も含める)の漢訳について盛んな討論が行われたことがある。漢訳の形式については、多くの専門者たちはそれぞれ自分の意見を主張して譲らなかった。幸いにも、文学芸術は「百花齊放」を尊んでいる。翻訳もそうである。小説の翻訳といい、詩歌の翻訳といい、翻訳者はみんなそれぞれの腕前を披露して、盛んに異彩を放つことができる。葉宗敏そして王大鈞先生は、俳句についてかねがね研究を積重ね、既に何冊かの訳本を世に出し、ずっと五、七、五の形式、つまり三句とも句末の字に韻をふむといういわゆる「漢俳」を取っている。この訳本も例外ではない。日本語の方は十七の音節であるが、中国語の方は十七の字で、内容は遙かに日本語の方を超えている。翻訳の時は必ず字と意を加えなければならない。これは、訳者が原詩の内包を正しく把握して、詩人の言外の意をはじくことができるかどうかにかかっている。言うまでもなく、このような訳し方はかなり難しいものである。だが、葉宗敏そして王大鈞先生は其の才能と悟り、経験と優れた技で、うまく

この難しい問題を解決した。毎首の後の「題解」は、読者に「季語」の意義を示すと同時に、其の俳句の「詩の目」と主旨を説明している。画竜点睛で、大変精到だと言えよう。

日本の俳句を読むのは、さらに日本文化を知ることができると同時に、一種の教養でもあって、因^よって審美の目を育て、優雅な情感を育成することもできるし、もっと宇宙の万物のすべてに関心を寄せることもできる。これは、民族の文化的修養を高めるには、ひとつのいい方法だと言えよう。

高 慧 勤

甲申年秋にて

(龚志明 译)

前 言

越学越使我兴趣盎然的中国已成为我的至爱。

我访问中国好多次,而且又练习中文会话,这期间,我的俳句得以译成中文并出版了。书中在中国游吟的作品特别多,其中又以《丝绸之路之旅——乌鲁木齐、吐鲁蕃、敦煌、西安等》、《汉诗之旅——庐山、九江、武汉、岳阳、洞庭湖、长沙等》、《山西省之旅——太原、雁门、河曲、大同等》为中心。

开始创作俳句已有十五年了,对季节演化我变得特别敏感,在教授茶道、花道的日常生活中亦有增色。

值此出版之际,我要向赐予玉文作序的中国日本文学研究会会长高慧勤女士表示衷心感谢!并向为我付出辛劳的王梅老师、徐晨阳先生,以及将叶宗敏先生介绍给我的池上正治先生,最主要的是向愉快地接受翻译拙作的叶宗敏先生以及王大钧教授表示由衷地感谢!

松本杏花

2004 年秋

(张 宓译)

まえがき

学べば学ぶほど興味が湧いてくる「中国」をこよなく愛しています。

何度も中国を訪れ、又中国語の会話を勉強するうちに、私の俳句を中国語に翻訳して出版することが実現しました。

特に中国での旅吟が多いですが、その中でも「シルクロードの旅—ウルムチ、トルファン、敦煌、西安等」、「漢詞の旅—廬山、九江、武漢、岳陽、洞庭湖、長江等」、「山西省の旅—太原、雁門、河曲、大同等」が中心でございます。

吟句を始めてから十五年間、特に季節の移り変わりに敏感になり、茶道や華道を教えながらの日々の生活にも潤いがあります。

この度の出版に際しまして、序文として玉文を賜わりました中国日本文学研究会の会長高慧勤女史には重ねて心よりお礼申し上げます。又、労をとって下さいました王梅老師、徐晨陽様、そして葉宗敏先生を紹介して下さいました池上正治様何よ

りも拙句の翻訳と気持良く引受けて下さいました
葉宗敏先生そして王大鈞教授に心よりお礼申し上げます。

松 本 杏 花
二〇〇四年秋